

第3学年 英語科学習指導案

日 時 令和4年11月21日(月)第5校時

指導学級

指導者

1. 単元名 “Wish Upon a Star Poetry Contest in Hiji Junior High School”に応募しよう

(NEW CROWN English Series 2 Lesson 6 Imagine to Act)

2. 単元設定の理由

(1) 教材について

本単元では、現在の事実とは違うことや、可能性が（ほとんど）ないことについて、もしそれが可能になるとしたらどんなことをしたいか、登場人物が考えや思いを語る内容である。また、過去の偉人が「不可能を可能に」したことを登場人物が語り、タイトルでもある **Imagine to Act** をテーマに、生徒は様々なことを想像しながら教材を読み進めていく。

言語材料として、生徒は仮定法過去を学ぶ。既習事項である仮定法現在との違いを知り、生徒は心の中の思いや考えをこれまで以上に英語で表現する幅が広がり、それを友達と共有し、卒業までの間、互いをさらによく知ることでできる学習活動を展開できる教材である。

(2) 生徒について

(3) 指導について

指導にあたっては、生徒が楽しい気持ちで参加している「話すこと」を授業の中心に置き、苦手意識からくる学習への不安や抵抗感を少しでも緩和されるような授業づくりを心がけたいと考えている。

授業の初めには、帯活動として、既習事項の復習を兼ねた **Speed Input** と **Pair Chat** を位置づける。語彙の習得や文法が定着していない生徒もいるため、短時間の継続的な学習を重ねさせたい。友達とペアで行う学習は、生徒の英語学習に対する楽しさを味わわせることができるのではないかと考える。

導入から主活動においても、既習表現を用いた教師の **Oral Introduction** から始め、生徒間（ペア）のコミュニケーション活動へつなぎ、それをもとに、まとまりのある文章を書かせていく。特に本時では、「もしタイムマシーンがあったら」という仮定のもと、過去や未来へ行ってどんなことをしたいか、その理由は何かを **Keynote** を使用しながらペアで話させた後、相手の話したことや相手から尋ねられたことを思い出させながら、まとまりのある文章を書かせていきたい。単元を通して、仮定したことや想像したことを話したり書いたりする活動を重ねながら、ゴールである作詩に向けて、イメージをふくらませ、「書くこと」における生徒間の差が少しでも縮まるよう指導したい。

3. 単元の目標

“Wish Upon a Star Poetry Contest in Hiji Junior High School”に応募するために、ものや動物の視点から、自分の思いや考えを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章（詩）を書くことができるようにする。

4. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>〈知識〉 仮定法の特徴やきまりに関する事項を理解している。</p> <p>〈技能〉 Poetry Contestに応募するための詩について、仮定法等を用いて、書く技能を身に付けている。</p>	<p>Poetry Contestに応募するための詩を書くために、自分の思いや願いを整理し、既習事項や仮定法を用いて、まとまりのある文章を書いている。</p>	<p>Poetry Contestに応募するための詩を書くために、自分の思いや願いを整理し、既習事項や仮定法を用いて、まとまりのある文章を書こうとしている。</p>

5. 単元の指導計画と評価計画（9時間扱い）

時間	学習活動	評価規準		
		知	思	主
1	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本単元の目標を理解し、見通しをもつ。 ○ Kate と Riku の会話文を読み、本を読んでいる Riku の思いを理解する。 	○		
2 本時	<ul style="list-style-type: none"> ○ 仮定法(if)の特徴やきまりを理解する。 ○ 「もしタイムマシンがあったら」というテーマで友達に話したことを、まとまりのある文章で書く。 	○		
3	<ul style="list-style-type: none"> ○ Jing の卒業スピーチを聞いたり読んだりして、彼女が飼っている猫のことを知るために考えていることを理解する。 	○		
4	<ul style="list-style-type: none"> ○ 仮定法(wish)の特徴やきまりを理解する。 ○ 自分が動物になったらできることについて友達に話したことを、まとまった文章で書く。 	○		
5	<ul style="list-style-type: none"> ○ Riku が発表した卒業スピーチの原稿を読み、スピーチを通して Riku が最も伝えたいことや偉人達の話から学んだことを理解する。 	○		
6	<ul style="list-style-type: none"> ○ Riku が発表した卒業スピーチの原稿を読み、Riku が伝えたいことや偉人の教えを通して、新しいアイデアを生み出すためにはどんなことが大切かを考える。 		○	○
7	<ul style="list-style-type: none"> ○ Riku が発表した卒業スピーチの原稿を読み、Riku が伝えたいことや偉人の教えを通して、新しいアイデアを生み出すためにはどんなことが大切かを考え、グループで話し合う。 		◎	◎
8	<ul style="list-style-type: none"> ○ “Wish Upon a Star Poetry Contest in Hiji Junior High School”に応募するために、ものや動物など、何かになったときにできそうなことをグループで出し合う。 		○	○
9	<ul style="list-style-type: none"> ○ “Wish Upon a Star Poetry Contest in Hiji Junior High School”に応募するために、ものや動物など、何かになったときにできそうなことややってみたいことを考え、詩を書く。 	◎	◎	◎
後日	ペーパーテスト	◎	◎	◎

6. 本時案

- (1) 題目 タイムマシンがあったら、どの時代に行って何をしたいか伝えよう
- (2) 本時のねらい 仮定法過去(if)について理解し、それを含む英文を書くことができるようにする。
- (3) 展開

学習活動	支援及び指導上の留意点	時間	備考 (*評価)
1 Review			
(1) Warming Up	○ペアで「Speed Input」をさせる。	2	
(2) Pair Chat	○既習表現（仮定法過去 if）を用いてペアで会話をさせる。	5	
2 Main Activity			
(1) Oral Introduction	○教師の話から本時のめあてを予想させる。	3	
タイムマシンがあったら、どの時代に行って何をしたいか伝えよう			
(2) Preparing	○前時に書いたマッピングをもとに、「もしタイムマシンがあったら、どの時代に行って何をしたいか」について Keynote のスライドを作成させる。 ・ipad を用いて、Show and Tell の形式で話すことを伝える。	8	
(3) Talking	○Keynote のスライドを示しながら、「タイムマシンがあったらしてみたいこと」についてペアで説明させる。 ・ペアを数回変え、話す回数を増やし、自信を持たせる。 ・「プラス 1 言葉」を意識させ、会話を続けるように促す。 ・難しいと予想される語彙は ipad で日本語訳を指し示しながら伝えてよいことを知らせる。 ・数ペアを指名し、全体の前で発表させる。 ○解答用紙の英文を自分に合った方法で聞かせる。 (一緒に読む、発音を確認しながら聞く、日本語訳を見ながら聞くなど)	12	
(4) Writing	○ペアで伝え合った内容をもとに、「もしタイムマシンがあったら」というテーマで、まとまりのある文章を書かせる。 ・相手から聞いた内容を思いだし、自分の話したことを修正しながら書いて良いことを知らせる。	15	
3 Reflection	○今日の授業を振り返り、次の視点で自分の思いを書くことを伝える。 【振り返りの視点】 工夫したこと・もっと伝えたかったこと	5	
<p>【期待する振り返り】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過去や未来に行って、何をしたいかについて、理由を含めて書くことができた。 ・行ってみたい時代や、やってみたいことがそれぞれ違い、おもしろいなと思った。 ・話しているときは「未来へ行って、自分の家族や友達に会ってみたい」と言えなかったけど、書くときは、単語を調べながら、なんとか書くことができたので次はスムーズに話したい。 			